

令和6年度訪問型家庭教育支援推進事業第3回専門講座開催要項

- 1 趣 旨 夏冬連続講座の2回目となる本専門講座では、1回目の講座「こどもと本をつなぐ～絵本の魅力・読み聞かせ～」の学びを深化させ、集団の読み聞かせについて講義と演習を行う。講座開催前に、集団の読み聞かせに適した選書を参加者自ら行い、講義で学ぶ読み聞かせの知識や手法を演習において自らの一冊で試行する内容としている。講師の助言を得たりグループで互いの良さを認め合ったりする活動を通して、保護者やこどもの読書活動に関わる参加者が読み聞かせの楽しさを味わいながら専門性の向上をめざす講座とする。
- 2 主 催 和歌山県教育委員会
- 3 テーマ 家庭教育支援とこどもの読書～うちどくのススメ～
- 4 対象者 家庭教育支援関係者、子育て支援者、図書館職員、図書館ボランティア、子育て中の保護者、学校司書教諭、園・学校関係者、保育士等こどもに関わる活動をしている方
- 5 募 集 40名程度
- 6 日 時 令和6年12月4日（水） 10時から正午まで
場 所 海南 nobinos 2階 ノビノスホール
〒642-0002 海南市日方1525-6 TEL 073-483-8739

7 日 程

9:45	10:00	10:05	10:55	11:50	12:00
受付	開会	講 義	演 習	ふりかえり	閉会

※講演の時間には質疑応答を含みます。

※演習はグループに分かれて行います。1、2冊の絵本を各自ご準備ください。（別紙参考）

【内 容】

講 義 「こどもと本をつなぐ～絵本の魅力・読み聞かせ～」
講 師 和歌山県立図書館サービス課 副主査司書
坂 口 佐 知 子 氏

- 8 申込み 別紙様式により、メールもしくはFAXにてお申込みください。

○メール：yamamoto_s0179@pref.wakayama.lg.jp

○FAX：073-441-3724

右の二次元バーコードを読み取り、申込みフォームからのお申込みもできます。



【申込み締切】令和6年11月28日（木）

【問い合わせ】和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課地域教育班 担当：山本

TEL：073-441-3721

第1回専門講座「こどもと本をつなぐ～絵本の魅力・読み聞かせ～」

坂口佐知子先生のレジュメより

読み聞かせについて

①「読み聞かせ」とは

- ・本を読んで聞かせること。特に、幼児や低学年児童に対し、絵本や児童書などを音読して聞かせること。
『大辞泉』（小学館刊）引用
- ・戦後読書運動の中で生まれ育ったことことば。テレビが家庭に普及しはじめて子どもが本を読まなくなってしまうと案じた大人が「子どもに本を！」という運動を繰り広げました。1967年に創立された「日本子どもの本研究会」が「読み聞かせ」と名付けたといわれています。

『読み聞かせわくわくハンドブック』（一声社）参照

②「読み聞かせ」が育てるもの

- ・本に対する興味・関心を持たせる
- ・読書の素地を養う
- ・他人を思いやる心
- ・聞く力
- ・本を選ぶ力

＜家庭で読み聞かせ＞

- ・読み手、聞き手のきずなを深める
- ・子供が身近な人のぬくもりや声をとおして安心できる

＜集団で読み聞かせ＞

- ・同じ時に同じ場所で、本の世界を共有し、共感の体験、共通の話題を持つ楽しさ
- ・友だちの個性の気づき
- ・作品をいろいろな角度から感じる
- ・みんなの中での自分の発見

③集団の読み聞かせに向いている絵本

- ・部屋のうしろの方でも見える大きさの絵本
- ・よく見える絵
- ・絵と文があっている
- ・開いたページに1場面（たくさんの場面がある時は指で読む場면을さすとよい）
- ・季節や行事にあっている



④読み聞かせが終わった後は…

絵本に作られるような短いお話の中にも、深い教訓が含まれていることは少なくありません。しかし、それは、お話のおもしろさの影にかくれて、子どもの心にすべりこみ、そこで長い間じっとしているうちに、子どもと一緒に成長していくような性質のもので、ことばとして教えたり、その場で理解させたりできるものではありません。

（松岡享子『えほんのせかいこどものせかい』日本エディタースクール出版部より）



ご参加の皆様は、上記③を必ず参考にしていただき、
1、2冊の選書をお願いします。

